

(国) 福島大学

行政政策学類

キャリア教養学科 (橘高校出身)

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

入学前の3月からです。もともと4年制大学を志望していましたが、合格できず進路に迷っていたところ、両親から編入学という制度があることを聞きました。不安もありましたが、桜の聖母短大は編入支援が手厚いということを知り、もう一度大学受験に挑戦しようと考えました。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年生の後期から「キャリアデザイン」で編入希望者向けの授業があり、編入学制度についての基礎知識、志望理由書や小論文の書き方の指導、面接練習が行われます。また、週に2回英語の授業があり、長文読解・英文和訳力を鍛えます。また、英単語の小テストを通して語彙力を向上することができます。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

実際の学習指導は、1年後期から編入学担当の先生に「キャリアデザイン」の授業で開始されました。小論文の添削や模擬面接などを複数回受けました。2年生の夏休みからは本格的に志望理由書を作成し始め、面接練習も先生に多くお願いしました。英語は1生前期から授業で学習指導が始まりました。毎回、単語テストや和文英訳演習があり、高校までの復習だけでなく、新たな知識を習得することができます。それらを自主学習（長文・過去問演習）に生かすことで、応用力を高めました。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

小論文対策です。1年次は新聞記事に対して意見を書き、先生に添削を受けていました。2年生から本格的に過去問を解き添削を受け始めました。始めは、課題文で出題されるような社会問題についての知識が不十分で、意見を形成することすら困難でした。しかし、新聞や新書等で知識をインプットし、過去問演習でアウトプットすることにより徐々に書けるようになりました。

Q.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

ライフキャリアについて学べたことです。コミュニケーション能力・知識など身につけた方が良いと言われるものが沢山ありますが、聖母でライフキャリアについて学ぶ前には、なぜそれらが必要かを理解していませんでした。しかし、その理由を十分に理解したことで、「〇〇に役立つ□□力を付けるために△△をしよう」と意味づけしながら行動するようになりました。聖母卒業後も、継続していきたいです。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

自分の現状を分析していただけたことです。もちろん、自分の力を極限まで伸ばす姿勢は望ましいですが、学習の比重を考えることも大切です。その点で、過去の編入合格者を知っていらっしゃる先生の意見は貴重です。限られた時間で合格に近づくためには「英語は編入学の肝だと言われていること・(自分や他者による)自分の力の分析・残された時間」を考慮して生活することも重要だと思いました。

Q.①大学(短大)受験の時の気持ち・②短大入学時(学生生活)の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

① 後悔のないように短大生活を送ろうと考えていました。

② 新たな友人ができ短大生活を楽しむ一方、短大卒業後の進路がどのようになるのだろうかという不安を抱えていました。

③ 自分が現役時代、合格できなかった原因を常に意識し、余裕をもって試験対策を進めようと思っていました。直前期は合格できるか不安でしたが、目の前の課題・弱点をつぶしていくしかないと冷静に試験勉強に取り組みました。

④ 自分の持てる力は出し切れたと思いましたが、自分が合格基準に達しているかとても不安でした。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

向上心をもって生活することが大切だと思います。筆記試験の勉強であれば、短大の授業だけでは足りないと思います。自分の弱点と向き合い、計画的に対策していくことが大切です。また、面接対策では、特別研究を進めると同時に自己アピール力の向上も必要になります。今の自分に満足せず、試験本番までに合格に値する自分を作るぞという日々の意識・努力が自分を合格に導いてくれると思います。と言いつつも、私は自分に負けてしまう時が少なからずありました。しかし、すぐに切り替え努力し続けたことで合格につながったのではないかと考えています。また、座学だけでなく、学外のボランティア活動、講演会へ参加することも有意義だと思います。これらに参加することで特別研究に生かされたり、人脈ができたりと周りの人と差別化できると考えます。日々の生活の中で、何が気づきを与えてくれるかわかりません。ですが、アンテナを張っておくことがより多くの気づきをもたらしてくれると思います。不安に思うこともありますが、短大卒業後の自分のため、応援してくれる家族のために前向きに頑張ってください。応援しています。